八雲會報

2014年（平成26年）
1月15日

発行：東京都立大学
附属高等学校同窓会
〒152-0023
東京都目黒区八雲 1-1-2
発行人：大戸由武
編集：同窓会報編集委員会

第一回「八雲が丘賞」は日本文化部・茶道部門の4人に

2013年9月25日に、第一回「八雲が丘賞」の贈呈式が行われ、桜修館日本文化部・茶道部門の活動に賞状と記念品代10万円が贈られました。

▲受賞者を囲んで、小林校長先生と同窓会メンバー　桜修館写真部・山川美奈子さん（6年）撮影

この賞は、都立桜修館中等教育学校の生徒たちの優秀な部活動や課外活動に対して、都立大学附属高等学校同窓会から贈られるもので、昨年スタートしました。

贈呈式は、第65回記念祭の「閉祭式」と同時に、桜修館メインアリーナ（体育館）で行われました。本来は記念祭の翌日行われる予定でしたが、台風の影響で延期となっていたものです。

当日メインアリーナに集合したのは全校生徒950人余り。小林校長先生の記念祭講評と「八雲が丘賞」の紹介のあと贈呈式を行いました。受賞したのは、茶道部門の真島芽生さん（5年）、幕地薫子さん（4年）、佐藤ひかるさん（2年）、塚本佳奈さん（2年）の4人。

▲壇上の贈呈式

▲八雲が丘賞表彰状

茶道部門の幅広い活動

日本文化部の茶道部門は、茶道の大きな大会に参加する一方、他校との交流や地域イベントへの参加など、幅広く活動してきました。

昨年は東京都主催の「東京大茶会・高校生野点の部」に参加、浜離宮でお点前を披露し、外国人や観光客に広く茶道を紹介しました。

また東京都高等学校文化祭・茶道部門中央大会に参加して、国立博物館のお茶室で他流派も含めて交流しました。ちなみに桜修館の茶道部門は裏千家流。

奥深い茶道の楽しさ

リーダーの真島芽生さんは「静寂を楽しむというのが茶道なので、どうやって静寂を引き立たせるか、そこがすごく難しいと思います」と茶道の奥の深さを語ってくれました。

受賞した他の3人も、「お点前をちゃんと覚えて間違えずに出来た時、よかったなと思います」、「普通に過ごしていたら静寂を楽しむということはないけれど、お茶をやっていると水の流れる音もまたいいかなって思います」、「記念祭でお点前をやらせていただいた時、お客様に美味しかったと言っていただくとうれしい」などと、部活動の楽しさを語っていました。

◆

来年の「八雲が丘賞」にどんな活動がノミネートされ、受賞するのか大いに楽しみになる贈呈式でした。この賞が、桜修館の現役生徒と私たちの同窓会との、緊密なつながりを象徴するものになるよう育てていきたいものです。

INDEX

八雲が丘賞 ―― 1
同窓会の現況 ―― 2
都立高校同窓会と旧友会 ―― 2
昨今の桜修館をめぐる動き ―― 3
事務局インフォメーション ―― 4, 5
第65回記念祭特集 ―― 6, 7
懐かしの顧問、教諭 ―― 8, 9
学フォーラム報告 ―― 10
同期会、クラス会、同好会 ―― 11
訃報、編集後記 ―― 12

「八雲が丘賞」規定

1 趣旨
この賞は、東京都立桜修館中等教育学校の生徒による優れた部活動、課外活動に対して、東京都立大学附属高等学校同窓会から贈られるものです。

2 賞と対象期間
賞の対象期間は、4月から次年3月までの1年間とし、「優秀賞」および「奨励賞」の二つを設定します。2年以上にわたって顕著な実績を上げた活動に対して「大賞」を贈ることがあります。
賞は、記念品または同等金額の活動費支援とします。

3 基準
賞の選考基準は以下によります。
①年間を通じて継続的に活動を展開し、十分な実績を上げたもの
②前年度に比して活動の内容に顕著な向上が見られたもの
③対外試合、コンクールなどで優秀な成績を上げたもの
④その他桜修館生徒にふさわしい優れた活動を行ったもの

4 選考
対象となる活動について桜修館中等教育学校の推薦をうけ、都大附高同窓会理事会において決定します。

5 賞の贈呈
前年度の受賞活動に対し、原則として次年度記念祭の期間中に表彰し、賞の贈呈を行います。
（付記）この規定は、平成25年4月1日より施行します。
ただし、賞の対象期間を平成24年度に遡って実施します。

同窓会の現況および今後の活動について

理事長　宍戸迪武

こんにちは。13期の宍戸です。同窓会の現況について、以下若干の報告をいたします。

「八雲が丘賞」の発足

同窓会の新たな活動として「八雲が丘賞」を制定し、昨年9月に第一回の贈呈式が行われました。桜修館の現役の生徒たちの部活動、課外活動に、都大附高同窓会が賞を出す、というユニークな試みです。

第一回の受賞は、日本文化部・茶道部門の活動でした。この賞が定着して、現役生たちの励みになれば大変うれしいことです。同時に、この賞が都大附高と桜修館の繋がりを具体的に表現するものである点に、意義を見出すことが出来ると考えています。

同窓会の財務状況

同窓会は長く会費を収集せず、卒業生が在校中に積み立てた入会金をもって運営されてきました。

一昨年3月の第61期生の卒業をもって母校が閉校となり、収入がなくなったことから、会費を納めていただくことになったのはご承知の通りです。3年会費が5千円、終身会費は3万円です。

会員のみなさんのご協力により、2011年度の会費納入金額は527万円、昨年度が760万円でした。昨年度は、コンビニ納付が出来るようになった効果もあったものと思われます。その結果、正味財産の期末残高が、2010年末の728万円余から1574万円余へと拡大し、同窓会の財務基盤はかなり安定したということができます。

今後年間1回の会報発行を維持しながら、少しずつ活動を拡大していくためには、年間の会費収入が安定的に300万円程度は必要だと思います。終身会費は1回だけの納入ですので「基金」的性格が強く、出来るだけ取り崩したくありません。したがって3年会費で毎年の必要経費を賄えるよう、会員のみなさんのご協力をお願いします。

第65回記念祭

昨年9月14日、15日の両日、桜修館の「第65回記念祭」が開催されました。私たち同窓会は例年通り、同窓会の部屋「八雲が丘の集い」をもって参加しました。

部屋では、校歌・学生歌ほかのDVDを終日放映。旧制府立高時代の歴史的資料、各時代のキャンパスの航空写真などを展示し、旧制府立高創立から今に至る学校史年表を掲出しました。

旧制府立高OBを中心とする「校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌を歌おう」イベントは校舎内で行いました。

八雲が丘学友会

八雲が丘学友会は、旧制府立高、都大附高、桜修館の3校同窓会をつなぐ組織として2011年7月に発足しました。現在は、都大附高同窓会と府立高同窓会から理事6名、顧問として桜修館校長、副校長と桜修館PTAから2名、という役員構成になっています。

昨年度は年間5回の会合をもち、意見交換、情報の共有化に努めました。まだ桜修館同窓会は組織として活動をしておらず、会合にも参加していませんが、いずれ3校同窓会が揃うことを楽しみにしているところです。

今後の同窓会活動

昨年掲げた同窓会活動の三つの柱は、「会員相互の親睦を図り、名簿を管理する」、「旧制府立高以来の歴史と伝統を受け継ぎ、引き継ぐ」、「後輩の教育環境の向上に寄与するなど社会的活動をする」です。

現在ほとんど手のついていない会員相互の親睦を図る活動については、同窓会が主催する同窓生のためのイベントを、いずれ開催したいと考えています。

桜修館との関係では、進路指導カリキュラムの一環として行われている「學フォーラム」に講師を派遣していますが、こうした協力関係を拡大していきたいものです。学校の授業では扱えない課題の課外授業も展開したいと考えています。

学校の歴史的資料を保管する「メモリアル・ルーム」には、旧制府立高時代の資料はかなり集まっています。残念ながら、都大附高時代のものは極端に少ないのが実態です。これも同窓会員の力を借りて改善したいと思っています。

力足らずで、なかなか目に見える形でことが進みませんが、今後ともご協力をお願いいたします。

府立高校同窓会の活動停止と「旧友会」の発足

府立高校旧友会
理事事務局長
山田早苗

旧制府立高校の同窓会は、平成二十四年総会を最後に全ての活動を終えました

が、なお千名余の同窓生が存命であり、都大附と桜修館を繋ぐ八雲が丘学友会の構成メンバーとして、同窓会の残余資産から学友会に三百万円を寄贈しました。

更に同窓生の内に今後もお互いの交友を守る手段を望む声が影響として起こり、同窓会活動の復活は諦めたものの、同窓仲間の消息を伝える会報の発行を目的として新しい

昨今の桜修館をめぐる動きについて

都立桜修館中等教育学校長
小林洋司

明けまして、おめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。都立大附属高等学校の同窓会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしのことでしょうか。

桜修館中等教育学校では、昨年9月に記念祭が終わって、しばらくは大きな学校行事がない状況が続いております。校内の雰囲気はとても落ち着いており、勉学や読書、スポーツに励む生徒の姿があちらこちらで見られます。昨年末には、5年生のシンガポール修学旅行、3年生の国内研修旅行がありました。

さて、昨年の記念祭では、宍戸理事長のご尽力で「八雲が丘賞」が創設され、閉祭式当日の9月25日に第1回の授与式が行われました。今回は、日本文化部の茶道部門が受賞することとなり、同理事長から代表生徒が賞状と賞金をいただきました。本当にありがとうございました。このことを励みとして、いっそう精進に努めることと思います。また、この賞を通して、都立大附属高等学校同窓会と桜修館の生徒との絆がいっそう深まってくれることを期待したいと存じます。

次に、生徒の動きです。部活動の成果としては、水泳部の前期中学生が全国中学生水泳大会に出場し、200mと400mの個人メドレーで8位に入賞しました。また、弓道部の前期中学女子団体戦で、関東大会ベスト8となりました。吹奏楽は中学・高校とも東京都のコンクールで金賞を受賞し、高野山競書大会で金剛峯寺賞を受賞した5年生もいました。また、都立高校生「言葉の祭典」では、都立西高校のチームを相手に4年生の男子4名がチームを組んで討論を行いました。テーマは、首相の公選制についての是非を問うもので、本校は是の立場で立論や反論等を行いました。惜しくも勝ちにはいたりませんでしたが、西高に比べて1年年下のチームにもかかわらずまとまりがあり、立派に反論する生徒の姿を見て、観客席にいた誰もがよい印象をもったと確信しました。

最後に、6年生（三期生）はいま進路実現に向けて、ひたむきに努力を重ねています。放課後も自習室、進路室、普通教室、図書館等でチューター（東大生）を活用しながら、午後7時まで勉強に励んでいます。隣接するパーシモンホール内の図書館を利用して9時まで頑張っている生徒もいます。そしてほとんどの生徒がセンター試験を受けます。

本校は、今後とも進学実績を挙げられる学校として、着実に地歩を固めるよう全力で取り組む所存です。同窓会の会員の皆様におかれましては、本校の教育活動にご理解をいただきまして、これまでと同様にご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

記念祭でお点前を披露する茶道部門の生徒

組織を立ち上げ、昨年九月府立高校旧友会の創立総会を開催しました。

旧友会に加入資格があるのは、府立高校閉校までの卒業生と、尋常科の四年か三年を終了した者に加えて、それらの遺族も含めており、一五四名の会員が初年度の年会費三千円を拠出済です。

毎年四回会報発行と二年ごとに名簿の配布を規約で定めており、既に第二号の会報が発行され、第一回の名簿も作成配布されました。

年間の行事は別途会費を徴収することとなっており、総会は九月に開催し、三月には懇親会か日帰りツアーなどの実施を計画中です。

創立総会当日は生憎にも台風十八号の直撃を受けたために、予定の半数近くが欠席でしたが、遺族会員や同伴された奥様方を加えて三十名の出席を得て無事に開催されました。前日迄に委任状も八七通届いており、予算案などを承認、続いて開かれた懇親会の冒頭では、来賓としてご出席下さった都大附同窓会の宍戸理事長からもご挨拶を頂き、会員たちは想い出を語りました。

会報発行の目的は会員の動静を伝えることとはいえ、後継校である桜修館の近況報告も重要な使命であり、会報第一号では入学志願者急増を数字で示すとともに、主要大学の合格者の実情も伝えましたし、第二号には記念祭の模様をコラージュ入りで掲載しました。

旧友会が今後何年続くか、訃報が数を重ねるとともに不安は尽きませんが、折角繋がった同窓の絆を、何としても守らねばならないと考えております。

しかし組織としては会の終末を想定しておくことが当然の責務であり、規約の最後の二項目にそのことを定めており、第十四条では、八雲が丘学友会とは緊密に連絡し、会報による伝達を明記していますし、十五条では旧友会が解散する際に残余資産の八雲が丘学友会への贈与を義務にしました。

それでも府立の同窓生は誰も皆元気です。

事務局からのご報告・ご連絡・お願い

Information

1　2012年度決算報告

2012（平成24）年度の決算は、表Ⅰ、表Ⅱの通り、大きな正味財産増となりました。予算では会費収入を極小に見積もっていたため、対予算の数字はあまり意味を持つとは言えませんが、収入が662万円のプラス、支出が80万円の超過、という結果でした。

＜収入＞

収入の柱である受け取り会費は、3年会費が412万円、終身会費が348万円で、合計760万円。これは前年実績527万円を大きく上回った。特に3年会費の納入が376人から824人に増えたことは、コンビニ納付の実施によるところが大きいと思われる。

＜支出＞

一方支出では、会報の印刷・制作、発送費が計200万円余と、全体の3分の2を占めた。その他では、コンビニ収納の手数料が大きく、「八雲が丘賞」の記念品代を含む記念祭費、会議費、通信交通費などがまとまった支出となった。

＜正味財産の増減＞

経常収益の770万円弱に対し経常費用300万円強の差額470万円弱が財産増額となった。この額が前年度期末残高の1104万円余に上乗せされ、当期末の正味財産残高は1573万円余である。

2　2012年度の会議ほか

2012年 9月 8日	臨時「理事・監事・評議員会議」
10月 8日	常務理事会
12月 2日	上期「理事・監事・評議員会議」
2013年 5月19日	下期「理事・監事・評議員会議」
8月5日	会報編集委員会
9月14～15日	第65回記念祭出展
9月25日	第1回「八雲が丘賞」贈賞式
11月1日	会計監査

3　同窓会の会費について

すでにご承知のように、2010年度まで、都立大学附属高校同窓会は会費を集めていませんでした。会の活動は、寄付金と卒業生が卒業時に納入する入会金で賄われており、この入会金は在学中に積み立てられていたもので、いわば自動的に同窓会の収入となっていました。

ところが、2011年3月の61期生の卒業と同時に、都立大学附属高等学校は閉校となりました。そのため新たな卒業生は誕生せず、同窓会への入会者も入会金もなくなったわけです。この時点で同窓会の資産は約770万円、これまで通り会報の発行を続けると3年で底をつく計算でした。

そこで2011年4月の同窓会総会で、改めて「会費」を設定しました。それが

会費：三年間　5,000円
終身会費：　30,000円

【表Ⅰ】2012年度貸借対照表

（2013年9月30日現在）

科目・摘要	金額（単位：円）
Ⅰ資産の部	
流動資産	
現金及び預金	
ジャパンネット銀行	2,340,905
みずほ銀行	12,650,044
ゆうちょ銀行	579,170
現金及び預金計	15,570,120
頒布図書在庫	
名簿	159,500
閉校記念誌	15,000
頒布図書在庫計	174,500
資産合計	15,744,620
Ⅱ負債の部	
未払金（記念祭パネル）	17,010
負債合計	17,010
Ⅲ正味財産の部	
前期繰越正味財産	11,047,187
当期正味財産増加額	4,680,423
負債及び正味財産合計	15,744,620

【表Ⅱ】2012年度正味財産増減計算書

（2012年10月1日～2013年9月30日）

科目・摘要	金額（単位：円）
Ⅰ経常収益	
1、受取会費	
3年間会費	4,120,000
終身会費	3,480,000
受取会費計	7,600,000
2、事業収益	
名簿売上	79,500
寄付金	15,000
事業収益計	94,500
3、利息収益	1,761
経常収益計	7,695,261
Ⅱ経常費用	
1、会報費	
会報印刷費	1,014,825
会報作成費	122,395
会報発送費	922,860
会報費計	2,060,080
2、事業費	
名簿原価	78,000
記念祭費	142,366
事業費計	220,366
3、経常管理費	
会議費	82,120
雑費	57,340
手数料	464,094
事務用品費	19,921
通信交通費	91,917
経常管理費計	735,392
経常費用計	3,015,838
Ⅲ経常外収益	
経常外収益計	0
当期正味財産増減額	4,680,423
前期繰越正味財産額	11,047,187
正味財産期末残高	15,727,610

監査報告：提出された2012年度の帳簿等を精査し、上記財務諸表等に誤りがないことを確認します。

2013年11月1日　監事

蓑原利憲

事務局インフォメーション

会費納入のお願い

1期から58期の方が対象です

今回、会費の納入をお願いするのは、1期から58期の卒業生で、昨年11月末までに3年会費、終身会費とも納入したことのない方です。59～61期のかたは、高校卒業後5年間は免除ですので対象外です。

対象の方には、会費納入のための払込取扱票を同封いたしました。すでに納入された方には同封されていないはずですが、行き違いで万一同封されていた場合は、何とぞご容赦ください。

振込みの方法

●郵便局（ゆうちょ銀行）

同封の「払込取扱票」をお使いください。3年会費、終身会費兼用です。住所・氏名・金額など必要事項を記入してください。

●コンビニ

コンビニ専用の「払込取扱票」は3年会費のみの扱いです。そのままコンビニにおもちください。

●銀行振り込み

銀行名＝ジャパンネット銀行、支店名＝すずめ支店、
支店番号＝００２、預金種目＝普通預金、
口座番号＝６２７１３９８、
口座名義＝トウキョウトリツダイガクフゾク
コウトウガッコウドウソウカイ、
（漢字表記は、東京都立大学附属高等学校同窓会）

ＡＴＭから振り込む場合は、１３Ａトリツタロウのように、振り込み人の名前の前に卒業期・クラスを忘れずに入れてください。

ネットバンクをご利用の場合は、通信欄があれば１３Ａ都立太郎のように卒業期・クラス・氏名を入れてください。通信欄がない場合はＡＴＭと同様に振り込み人欄を修正してから送信してください。

「八雲が丘文庫」に著書寄贈のお願い

母校の閉校にあたり、卒業生、教職員の著作を集めた「八雲が丘文庫」が開設されました。現在、寄贈された著書は150冊余りを数え、図書館の専用書架に展示されて桜修館の生徒の利用に供せられています。この文庫をさらに充実させるため、著書の寄贈をお願いいたします。

＜寄贈先＞〒152-0023 東京都目黒区八雲１－１－２
都立桜修館中等教育学校内「八雲が丘文庫担当」
ＴＥＬ．**03-3723-9966**

（恐れ入りますが送料のご負担をお願い申し上げます。
また卒業生、教職員の著作以外は受け付けておりません）

このいずれかを選択して納入いただく。ただし高校卒業後５年間は納入いただかなくてよい、というものです。

前々号、前号の会報で会費納入を呼び掛けたところ、決算報告に記載した通りの納入状況となりました。これまで会費納入にご協力いただいた会員数は、３年会費、終身会費合わせて1,400人余りです。

4　理事・評議員選出のお願い

同窓会の活動は「理事・監事・評議員会議」に負うところが大です。総会は通常３年に１回の開催ですので、多くのことは「理事」「評議員」で決定することになっています。ところが、この理事・評議員不在の期がかなりの数あります。

通常の形では、クラスの推薦で各クラス１名以上の評議員が決まり、その中から原則として各期１名の理事が選ばれます。会則では他に理事長委嘱の理事、評議員が認められています。

前号の会報でもお知らせしましたが、現在以下の各期から「理事」「評議員」が選出されていません。

24、38、40、42、44、47、48、50、54、55 期

またこれらの期以外でも、転勤その他の事情で会議に出席できない理事、評議員が多数を数えます。

不在の期の方には、改めて「評議員」を選出していただきたいと強くお願いします。自薦、他薦も歓迎です。40期以降には、「理事」「評議員」になかなか会議に出席いただけない期が多くあります。理事、評議員の交代も含めて、出来るだけ出席いただけるよう配慮いただくようお願いいたします。

また、理事、評議員以外の会員の方で、同窓会活動に少しでも興味をお持ちの方がありましたら、ぜひ事務局までご連絡いただきたいと思います。

同窓会への連絡方法

住所の変更、その他の同窓会への連絡は、下記のいずれかでお願いします。

http://yagumokai.org/　同窓会ホームページ
トップページ左側の（ご連絡）Contact ボタンをクリックするとメールフォームが出ます。

郵送１　宛先は
〒152-0023 東京都目黒区八雲１－１－２
都立桜修館中等教育学校内
都立大学附属高等学校同窓会

郵送２　宛先は
〒152-0002 東京都目黒区目黒本町４－23－６　宍戸方
都立大学附属高等学校同窓会 事務局

第65回記念祭の入場ゲート

第65回記念祭 特集

校歌、校旗とともに桜修館に継承され、第65回を数える記念祭が、昨年9月14、15日の両日行なわれました。

多数の小学生が来校

初日はまずまずの天候で早くから親子連れが受付を賑わしておりました。個人的には『記念祭の小学生』に違和感は否めないものの、見学者の主流は間違いなく小学生とその係累の方たちとなっており、昨年に続く大混雑で模擬店の30分待ちは当たり前という盛況振りでした。

今年も同窓会の部屋

今年の同窓会の部屋「八雲が丘の集い」は、B棟2階の201講義室にて展示及びDVD放映を行いました。見学者は映らだったものの、記念祭歌が聞きたいと飛び込んできた4年生達や、展示写真の説明に熱心に耳を傾けて戴いたコアな方が目立った気がしました。

初日朝の受付。さすがに人気の中高一貫校・桜修館、小学生と保護者が次々に訪れました

今年から垂れ幕が登場。同窓会も1本掲出しました

同窓会の部屋「八雲が丘の集い」では、旧制府立高校の歴史的な資料や、八雲が丘の変遷を見られる写真パネルなどを展示

中庭の風景

旧制府立高OBを中心に、校歌、学生歌、寮歌、記念祭歌を斉唱。多数の聴衆が集まりました

展示の資料を見る親子

満員御礼、30分待ちの模擬店

人気の軽音楽で盛り上がるサブアリーナ

記念祭プログラム

第65回記念祭 特集

旧制府立OBの歌声

旧制府立高校同窓会有志による校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌斉唱がA棟B棟を繋ぐ2階渡り廊下で行われました。揃いの半被で高歌放吟するパフォーマンスは多くの耳目を集め、ケータイやデジカメで写真に収める若いお母さん方も多く見受けられました。

台風襲来にヒヤリ

二日目は朝から台風18号の強い雨。早い段階で開催時間短縮、午後2時終了が決定されましたが、昼前には雨も上がって強い日差しも戻り、一斉に来られた見学者で再び賑わいました。

後輩たちにエールを

しかし…入学目指して多数来校する小学生に比べ、訪れる同窓生の悲しいほどの少なさ！今年9月13、14日のスケジュール帳には、ぜひとも記念祭の一コマを、今すぐ記入願くようお願い致します!!

往く人並ぶ人。一時は全校内この状態でした

てんてこ舞いの裏方

さて来場者の平均年齢は何歳でしょう

日本文化部・茶道部門の「桜庵 柿の木茶会」お茶室の入口

旧制の時代から、記念祭の最後にファイヤーはつきものだった。
この写真は1970年の記念祭。ファイヤーが消えたのはいつからだろう

揃いのハッピ姿で歌う旧制府立高OB「一土会」メンバー。
桜修館の校長、副校長先生も参加

懐かしの恩師

思い出すままに

春山秀雄 先生
（1968年～1990年在職・英語）

僕が都大附属高校に赴任したのは1968年4月。学校群制度が始まる前の制度で入学した3年生がまだ残っていた。当時はまだ二期制で、校舎は古い木造が主体で机と一体になった小さな椅子が遠い昔を彷彿とさせた。冬のダルマストーブ、落ち葉を撒き散らしたかのように校庭に散乱している銀杏の実。

「雑用は私たちがしますから、時間をご自分の研究に充て、教科書にはない深い授業をしてください」赴任にあたっての引き継ぎで前任の先生（慈恵医大へ転出）から言われた言葉を今でも思い出す。あとで気付くことだが、この言葉には府立高校以来の校風と「自由と自治」の精神に培われて目指すべき教育が端的に表現されている。

教科書のことはぶれたが、1年生の英語の授業で読んだヴァンルーンの「人類史」と「シェイクスピア物語」。これに新約・旧約「聖書」の入門的なテキストが加われば、これは西欧語学習に不可欠な基本知識の学習、と今でも思っている。当時は第二外国語として「フランス語」と「ドイツ語」が

初級・中級とそれぞれ4単位。中級は7・8時限目におかれていた。

自治活動の柱は自治会、校友会（文化部・運動部の自治組織）。新入生が「自由と自治」を学んでいくうえで不可欠の体験としての「クラスマッチ」と「記念祭」。記念祭で生徒たちと歌った「吹きすさぶ」を口ずさむたびに今でも胸が熱くなる。新制第七回記念祭以来歌われ続けてきた歌である。「吹きすさぶ／嵐をつきて／燃えしきる／生命のつぼみ／・・・」

附属高校に赴任する前年に始まった卒業式問題に始まる紛争。結局、69年の卒業式は中止。以来復活は27期か28期と記憶するが、僕が担任した25期生から結婚式で都大附高の「校歌」を歌いたいのだけれど歌えないので教えてほしい、と言われ、吹き込んだテープで練習して結婚式当日、感慨をこめて一緒に歌ったことも思い出される。「嗚呼西山の雲晴れて／生気天地に充る時／希望に燃ゆる若人は／この学び舎をしたい来て／八雲が丘に集いけり」附高に赴任以来二十二年間軟式庭球部の顧問を続け、合宿も共にした思い出の数々。それは別途、軟庭部の同窓会誌「白球」に寄せた「思い出すままに」があるのでここでは省略したい。ぼろぼろな畳の沼津寮合宿で、釣り上げた四十匹近いダボハゼを管理人さんに天ぷらにしてもらったことや怪談をしてから近くの墓地を回る肝試しも思い出す。

墨のフンでお馴染みの講堂に代って大学に新規に建設された立派な講堂を使って行われた記念祭でのさまざまなクラス演劇。教職員有志として参加した木下順二の民話劇「三年寝太郎」。セリフが覚えられず、アンチョコを着物の帯に挟んでいたが、開幕寸前、「江戸時代にはメガネはありませんよ」と手伝いの演劇部の生徒にメガネを取り上げられて観念し、ふて腐れてアドリブで助太殺の加藤さん（英語科）の生真面目なセリフに応対したこと。

終わって大学通用門前の「アサベ」にパンを買いに立ち寄ると、「今日は何があったんですか？大勢の生徒さんが、ああ面白かった、と言いながら立ち寄っていきました」。まさに怪我の功名であった。

寄稿

「ネパール会」解散にあたり

村上芙佐子 先生
（1977年～1995年在職・国語）

「ネパール会」2013年2月2日に解散式をもちました。

創立以来20年現。附属高校の閉校を控えた数年間を、記念事業として彼の地に何を残すか（住民にもっとも貢献できるものは？）を、垣見一雅さんと協議してきました。そして、決定したのが吊り橋でした。堀信行会長と父母OBらの現地踏査の結果でした。しかも、パルパのかなり離れた3地点に。昨春、2本の開通式に会長は再度の現地入りをし、ほどなく3本目の完成写真が届きました。

支援の流れ―住民の要望があると労働力提供の建設（つまり後々村人が自力で修理・維持できるように）。設計は専門技術者がするが、その費用を私たちが、資材はスイスのNGOが負担することに。架橋場所は、住民の要望を踏まえて国が決定―という段取りで、当然工事は乾期に限られました。着工から足かけ2年の間、垣見さんから詳細な中間報告が届けられました。そして橋のお陰で学校へ行けなかった子がいなくなり、雨期の遭難がなくなったことを、村人がとても喜んでいるとの報告が垣見さんから届きました。

▲河岸の崖の上の支柱基礎。難工事だった

補足

❶「幼児教育支援」と「ミチコ基金」（病院までの患者運搬費援助）は、会の残金を「基金」として垣見さんに委託し継続する。

❷ 森慎一郎教諭と共に現地体験をした生徒は、「ジョラ

寄稿

文化の慈雨

山際正之（2期）

古い話ですが昭和23年秋の記念祭で、当時若手ヴァイオリニストの第一人者であった服本真理さんの、ベートーベンのヴァイオリンソナタ全10曲連続演奏会が、3回に分けて柿の木坂の都立高校講堂で開催されました。次いで12月には、日本在住の代表的ピアニスト、レオニード・クロイツァー教授のピアノリサイタルが、同じ講堂で開催されました。

因みにこの「都立高校」即ち「都立高等学校」とは、全国で38校しかなかった旧制高等学校のひとつで、「高等科」と「尋常科」で構成され、高等科（旧制高校課程）は現在の首都大学東京、尋常科（旧制中学課程）は現在の「桜修館」の前々身にあたるもので、私はこの尋常科に在籍していました。（現在は僅かに東横線「都立大学」という駅名にその名残を残すのみです）

戦後の混乱の最中だったその頃の世相は、着るもの、食べるもの、住む家、即ち衣食住すべてに乏しく、世の中は正に文化を忘れ芸術に飢えて音楽どころではありませんでした。

しかし幸いなことに当校には、音楽担当教授として梁田貞先生がおられました。梁田先生（1885～1959）は「城ケ島の雨」や「どんぐりころころ」を作られた作曲家として有名な方で、その風貌から学生の間ではライオンともカバともあだ名され親しまれた先生です。当校のほか芸大や早大でも教鞭を執っておられましたが、とりわけ音楽教育と普及に努力され、精神文化の空白をなんとかしたいと云うお考えから、このような催しを自ら企画され尽力されました。加えて当校は、校舎講堂が罹災を免れたことでコンサートが開催出来ると云う幸いにも恵まれていました。

こうして文化飢餓状態にあった私達在校生のみならず、一般の人々も加えて芸術の潤いに接することが出来ましたが、こんな時代に一流の音楽を生で楽しめるとは、正に干天の慈雨であり画期的なことでした。これが端緒となったのか、当時在籍していた学生の中から後に音楽の分野で活躍された方が何人も生まれ、現在も音楽界で活躍なさっている方もあります。

昭和4年「府立高等学校」として創立された時、「東洋のイートン校を目指す」のが建学の趣意でありました。イギリスのイートン校がそうである様に「深い教養に育まれ、世のリーダーとなり得る紳士の養成」を目的とした教育方針が、とかく旧制高等学校にありがちな蛮カラを排し、文化的都会的と云われた校風を作り上げていきました。こうした学風と優れた教授陣によって学生達は文化芸術の潤いが与えられ、豊かな教養の基礎がつくられましたが、これは今日の桜修館にも脈々と生かされ受け継がれて行くことでしょう。

とくほ会

9期の同志で「とくほ会」というグループを作っている。会の名称は、都立大付属高校の「と」、9期の「く」、歩くの「ほ」を重ねたもの。会費なし規則なしの、きわめてゆるやかな集まりである。月ごとの当番幹事を決めているため、例会は年間12回ある。参加不参加はメンバーの自由だ。

もともとは同好の数名が山歩きを楽しもうと集まって、9年前に発足したのだが、その後、近郊の山歩き、渓谷探勝、名所の花見、河川クルーズ、下町ウォーク、七福神めぐり、工場見学などバラエティに富んだ活動を続けている。最近ではレストランでの会食や、温泉地への一泊旅行も加わるようになった。そして、毎回打上げはアルコールの勢いも手伝い、世事百般にわたる知的（？）談論の場と化すのが習いである。

（飯島宏・記）

▲吊り橋の上の組会長

基金」（村の子どもの学費援助）活動を続行。

❸ネパール会役員と有志は、組見さんの活動支援グループとして再編された。

❹昭和26年卒の故伊藤邦幸医師が設立の契機を作った「ネパール会」については、平成22年12月の本会報、本校70年史、閉校記念誌に詳文既出。

❺ネパール会の記録は母校メモリアルルームに納められた。

▲村の子どもたち

「學フォーラム」講師をつとめて

猪熊建夫・13期
（1963＝昭和38年卒）

いささか旧聞になるが、12年12月に母校に出向き「ようこそ先輩」の役割を果してきた。

アラフォーの娘がやはり同窓である。在学中に記念祭に訪れているので、キャンパスに立ち入ったのは20数年ぶりのことであった。

正確にいえば、母校ではない。桜修館中等教育学校という6年制の学校に変身してしまったからである。

私は12年7月から、週刊「エコノミスト」誌で『名門高校の校風と人脈』という連載を毎週、続けている。13年末までで、計75回を数える。

全国どこかの名門高校を毎週のように訪問しており、6年制中高校もすでに20校ほど取材している。「6年制」そのものには賛成である。だが、「桜修館」というネーミングはいただけない。「右翼少年の養成所みたいで、実にセンスがない。君たちも被害者だが」と毒づいた。

私が受け持ったのは4年生（昔の高校1年生）のクラスだった。まだ、あどけない表情の子どもばかりだった。

「この子たちにわかるかな」と多少、心配したが、好き放題しゃべってきた。あとで生徒からの感想文が送られてきたが、当方の趣旨はまず理解されているようだった。むしろ「講師の言うことはおかしいのでは」という反論を期待していたが、それは全くなかった。

私が強調したのは、「将来、どのような仕事に就くのかを、今から絶えず自問自答するべきである」という点である。

よく「終身雇用は終わった」といわれる。持論だが「終身雇用など、日本には元々なかった」のである。最終学歴のあと入った会社や組織に60歳まで勤め続けたという被雇用者は、高度成長期でも7～8％にすぎなかった、という検証結果が出ているのである。

まして成熟期に突入した日本では、これから転職が当たり前になる。「就社という考えは、ご法度だよ」と力説した。

もうひとつ、特に女子生徒に啓蒙したいことがあった。「専業主婦など成り立たなくなる。これからは、共稼ぎが必至の時代になる」ということだ。「男子と同じように女子も、将来の職業を考えなさい。一生やれる仕事をだ」と強調した。

脱線もした。「聞けば、授業をサボる生徒は皆無だそうだね」「それはよくない。つまらない授業はどんどんエスケープして、図書室で本を読んだ方がいい」「それが、この学校の良き伝統である」。私の話を傍聴していた数人の先生は、どう感じたろうか。

（元毎日新聞社経済部記者・現フリーライター）

學フォーラム」の講師を経験して

北原　久利・18期
（1968＝昭和43年卒）

桜修館中等教育学校平成24年度・第11回「學フォーラム」に講師として行ってきました。

「學フォーラム」を説明すれば、学校とPTAが共催で、講師を10名集め、「今、君たちに伝えたいこと」を教室で生徒相手に講演するというものです。「學フォーラム」の内容や歴史などについては、昨年講師をされた30期の瀧野さんが、この同窓会報（前号）で書いておられますし、閉校記念誌に詳しく書かれておりますので割愛します。

ここでは、今の高校生というか桜修館中等学校生徒に対する印象や期待、および先生方やPTAの方々の印象と「學フォーラム」の今後の在り方について、若干の感想を書いてみたいと思います。

時間になると校長室に集まっていた講師を各クラスの代表2人が呼びに来ました。このことから、生徒の自主性はうかがわれました。それから講師2人の話があり、質疑応答となります。そこでの感じですが、予め質問用紙が配られており、講師が話すときには質問の回答を含めて話をしているので、質問が出ないことは予測できました。しかしながら、想像以上に質問が出ませんでした。

事前の質問の内容やその場でのやりとりから、生徒諸君は「非常に素直すぎるくらい素直」との印象を持ちました。一緒に講師をした13期の猪熊建夫さんも同様の感じを持ったことを、後で話をしておられました。「素直すぎる」とは決して褒め言葉ではありません。私たちの高校時代のある人のように、講師を困らせてやろうという不届きな生徒になれとは言いませんが、人の言うことに無批判では無しに多少は疑ってかかるくらい自分の考えを持ってもらえたらと思いました。

先生方やPTAの方々も生徒同様「素直」と感じました。後日編集され配布されたレジュメに、私の言いたかった「今の時期は、受験勉強も大切だが、本当の勉強＝学習する方法を勉強して欲しいと思っている」ことが載っており、先生の中から「北原さんの発言には耳が痛かった」と言って頂けたことで、私としては「學フォーラム」の講師をやってよかったと思いました。

最後に、東大への合格者数を誇り、もっと合格率を上げるよう言うOBや先生がいらっしゃいますが、私としては「學フォーラム」をもっと充実させるなど、自分で判断できるような人間になれる機会を多く作って欲しいと思っております。

同期会・クラス会・同好会レポート

第11期同期会

日時：2013年6月1日（土）
会場：奥沢「フランネル・蛯峨野亭」
参加者：54名

持ち回りで2年に1度開催している同期会が、小林幹事代表のリーダーシップで、12名の幹事の協力のもと、何度かの幹事会を経て、去る6月1日（土）の午後5時から奥沢のレストラン・フランネル"蛯峨野亭"で行われました。担任の先生は、残念ながら昨年上田先生が亡くなられて、出席はなくなりました。出席者は54名で、女子22名、男子32名でした。中にはアメリカからわざわざ帰国して参加された内田さん、青山さん、ドイツから参加された高橋さんと女性は精力的。男子では石垣島から笹尾君が来てくれました。

開会の言葉に続き、物故者に対する黙祷を捧げた後、私（養原）から、母校の近況報告を致し、健やかな桜修館の成長に皆さん関心を持ってくれました。乾杯の後は歓談で、盛り上がりました。特に海外からの一時帰国参加の方々の話には、日本語が既に多少危なくなってきていたりしましたが、皆さんが興味深く耳を傾けて居ました。

音響の清水リーダーの指揮で、懐かしい「校歌」、学生歌「青春といふ」、文乙歌「いざ友」等を、声を張り上げて皆のように歌い、青春を思い出しました。

最後に、次回は2年後に開催されるべく、武山伸昭君を代表幹事として、新聞部・社研・野球部の有志に引き継ぎを行い、記念写真を撮影して解散。名残尽きない28名は二次会の"えん"へと向かいました。（養原利憲・記）

ふれあい自然塾

15期の有志が中心となって、野鳥、草花、樹木などの自然に親しむことを目的に、「ふれあい自然塾」を開いています。

冨岡浩一君（B組）と私・佐々木浩二（A組）が世話人として、花・樹木や野鳥観察を趣味とする人、山歩きが好きな人など、約20名が参加しています。活動は野鳥観察が中心で、2010年にスタートして3年間に15回開催しました。

野鳥の集まる都内の公園、近郊の探鳥地、初夏の八ヶ岳高原、晩秋の赤城山麓など、宿泊を伴う活動を含めた自然塾で、確認できた野鳥の数は100種に達しました。

2013年3月の観察会（多摩森林科学園）

野鳥観察は初めてという人も多く、当初は、この年で野鳥の名前を覚えるのは大変だといっていたメンバーも、2年目ごろから鳥の見分け方などが分かってくると、自然の楽しみ方が増えたと大変好評です。

これからも、自然と出会い、自然に親しみ、仲間とふれあうこの活動を続ける予定です。（佐々木浩二・記）

第22期D組クラス会

日時：2013年8月31日（土）
会場：横浜「順海閣」
参加者：25名

暑さが残る夏の終わりに、「晩夏に集う、横浜で！」と題して久し振りのクラス会を横浜中華街で開催しました。

出席者の中には卒業後初めて会合するクラスメイト同士もあり、肩を叩き合い、手を握り締めてお互いに再会と健康を称え合う場面がありました。担任の前澤様も変わらずお元気でした。

当日は、各人からの近況報告と前澤様からスピーチがあり、懇親後には定番の記念祭歌の熱唱と、晩夏の横浜を青春時代に戻って大いに楽しみました。最後は、小柳幹事が「来年は還暦同期会で会いましょう！」の言葉で締めくくりました。（内田稔・記）

同窓会14,306名全員の「会員名簿」

母校の閉校にともない、当会の会員は、逝去会員を含め14,306名に固定されました。そこで、平成17年（2005年）12月発行の第1期から55期までの会員名簿に、56期から最終卒業生61期の名簿を別冊として添えた、全会員の名簿が完成しました。残部わずかとなりました。この機会にぜひお求めください。

［内容］平成17年版「同窓会名簿」：同窓会会則、恩師名簿、第1期～55期会員名簿、氏名・卒業期・クラス索引、クラブ・サークル別名簿、校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌（歌詞・楽譜付き）30曲

■B5判480ページ■別冊56期～61期名簿：B5判24ページ

■頒布価格（送料とも）2,500円　残部僅少

「校歌・學生歌・寮歌・記念祭歌集 DVD」

このDVDは母校の閉校記念協賛事業として、学校、府立高等學校同窓会等の協力と、会員のボランティアにより、一昨年5月、100名の会員により、母校の体育館メインアリーナで収録したもので、全曲映像に歌詞が付き、カラオケとして使用することが出来ます。

残部僅少

［内容］全編再生：38分

吹奏楽：校歌（嗚呼西山の）、學生歌（青春といふ）、文乙歌（いざ友）

斉　唱：校歌（嗚呼西山の）、學生歌（嗚呼烈誠の）、學生歌（青春といふ）、文乙歌（いざ友）、第五寮歌（紫の雲）、第八寮歌（春残更に）、第一回記念祭歌（手をつなげ）、第二回記念祭歌（古きいらか）、第七回記念祭歌（吹きすさぶ）、第十七回記念祭歌（晩夏に集う）、乾杯の歌（Stein Song）

■頒布価格（送料とも）1,500円　＊全歌詞を掲載した小冊子付き

注文の方法：
［〒152-0023 東京都目黒区八雲1-1-2
都立桜修館中等教育学校内　都立大学附属高等学校同窓会］あてに郵送、またはホームページの Contact 欄からご注文ください。

訃報　惜んでお悔やみ申し上げます

1期A組	春山　時郎	平成17年9月21日
1期B組	川口三千佳	平成24年9月23日
2期A組	鍵山　松彦	平成25年1月6日
2期B組	吉田　明	平成25年1月6日
3期A組	佐々木収作	平成20年12月19日
4期A組	野口　貞義	平成25年4月30日
4期B組	高田　宗昌	平成22年1月2日
5期B組	栗田　千明	平成22年11月26日
6期A組	山崎　邦郎	平成25年4月11日
8期C組	鈴木　裕	平成23年4月21日
8期C組	渡辺　一郎	平成24年4月7日
11期A組	山口　良臣	平成23年11月22日
11期C組	多田　永完	平成24年11月13日
11期C組	功刀　佳子	平成20年7月17日
17期F組	桐生　陽子	平成24年6月
19期E組	針谷　康博	昭和62年4月
20期A組	堀　茂	平成24年6月
21期A組	佐藤　匡子	平成24年9月29日
21期A組	倉田　孝子	
24期C組	山本　興子	平成24年11月16日
33期B組	柴田　浩子	平成20年
49期F組	吉田　有希	平成19年1月27日

同窓会事務局に連絡のあった方のみ掲載しています

名簿の活用と「補遺」掲載の中止について

前号まで、会報にはかなりのスペースを割いて「同窓名簿補遺」が掲載されておりました。今号より訃報を除いて「補遺」の掲載を中止いたします。

スペースの割りに活用されていないことが直接の理由ですが、個人情報は公にしないという時代の流れに沿ったものでもあることに、ご理解をいただきたいと思います。

かつて、同窓会の存在意義は「名簿」の定期的な発行にある、と言われた時期もありました。私たちの同窓会も2005年12月に「同窓会名簿2005」を発行しています。「補遺」はこの「名簿2005」の補遺だったわけです。冊子としての名簿を今後まったく発行しないと決定しているわけではありませんが、会則・細則にもあるとおり「当面行わない」ことにいたします。

一方で、会員による同窓会活動のための名簿利用は大いに行っていただきたいと考えております。そのため住所などの会員情報の管理は、出来るだけ正確なものにするべく努力します。

名簿を活用したいとの希望があれば、書面でご連絡いただくか、ホームページの、ご連絡<Contact>ボタンからメールフォームを使ってご連絡ください。

同窓会事務局

編集後記

長年にわたり同窓会の事務局業務を一手に引き受けてこられた野口貞義さん（4期）が昨年4月に亡くなりました。野口さんは会報の編集制作でも、名実ともに大編集長でした。改めてご冥福をお祈りいたします。

今回の会報では、前号までの7段組を6段組にして活字を大きくしたり、写真を多く扱うなど、若干の改革を行いました。いかがでしょうか。

いずれにせよ同窓会報は会員のもの。会員相互の交流の場としてご活用いただければと思います。投稿をお待ちしております。

会報編集作業での木下裕之氏、印刷発送全般に関する奥村印刷㈱の、大きな協力に感謝します。

同窓会報編集委員会

8期　須田　大春
13期　宍戸　迪武
14期　川田　秀文
18期　北原　久利
21期　根岸　之夫
35期　石川　恵子